

GPSを利用した観光行動の調査分析に関するワーキンググループ 議事概要

開催日時：平成25年10月17日（木） 15：30～16：30

場 所：観光庁国際会議室

出席者：

<委員>

相原 健郎 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授
岡本 直久 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 准教授
加藤 史子 (株)リクルートライフスタイル じゃらんリサーチセンター 主席研究員
(センター長 沢登次彦 代理)
神尾 文彦 (株)野村総合研究所 社会システムコンサルティング部 部長
河村 清孝 (株)ゼンリンデータコム ネットサービス本部
WEB-GIS事業部 部長

(欠席)

清水 哲夫 首都大学東京大学院都市環境科学研究科 教授

<オブザーバー>

内閣府消費者庁消費者制度課個人情報保護推進室
総務省情報通信国際戦略局情報通信政策課
総務省総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課
文部科学省研究振興局参事官（情報担当）付
経済産業省商務情報政策局情報経済課
経済産業省商務情報政策局サービス政策課
国土交通省総合政策局情報政策課
国土交通省観光庁観光戦略課調査室

福島県 観光交流局 観光交流課
山梨県 観光部 観光企画・ブランド推進課
静岡県 文化・観光部 観光・空港振興局 観光政策課
北海道富良野市 商工観光室
新潟県湯沢町 産業観光課
山梨県北杜市 産業観光部
長崎県佐世保市 観光物産振興局
熊本県阿蘇市 経済部観光まちづくり課

<議事概要>

1. 開会挨拶

2. 委員紹介

3. 座長選任及び挨拶

相原委員を座長に選任

4. 議事

(1) GPSを利用した調査の概要について

- ①今回の調査の目的について
- ②使用するデータと個人情報の取扱い
- ③今回の調査方法及び分析結果のアウトプットイメージ
- ④平成24年度「東北観光博」での調査概要の紹介

(2) その他

◎委員からの意見

- ・ どれだけデータという素材を料理できるかが重要だ。エンドユーザーのためになる分析をしていただきたい。
- ・ 観光客の主要な行動パターンをとらえることが重要。混んでいる時とすいている時でも周り方のパターンは変わってくる。季節や時間帯でも変わってくる。
- ・ 地域における思いこみと、ビッグデータの結果との違いを知ることが大事である。
- ・ 都市部はどうしてもノイズが多くなってしまう。ビジネス客が少なく観光客が多い地域では、実際の観光により近いデータを見ることができる。
- ・ 観光客の発地の違いによりリピーターか初回訪問者かある程度分析は可能である。たとえば、北海道内の観光客の半分は道内の人、他の半分の大半は南関東の人である。沖縄県はどんなに満足度が高くても、東京からは何度も行ける場所ではなく、東京の人は箱根に何度も行く傾向にある。
- ・ 位置情報を見て、どうしてここに人が集まっているのかを見る方法として、ツイッターなどの情報を重ねて情報を得ることも効果的だと考える。
- ・ 人の流れを鑑みてどこに地域での取組の重点をおくべきかを知ることが大事である。また、産官学の連携の観点からも、地元企業と共通の素地を持てることができる。
- ・ 今回の調査は個人の動きを統計的に把握できるものである。個人情報保護に留意しながら進める必要があると考える。
- ・ 利用するデータの条件は、幅広く普及しているということもあるが、個人情報等の取扱いについても問題のないことも条件。今回のデータはもともと属性が分からず、分析においても誰のどういうデータかは分からない。従って、個人情報を利用しているという不安や懸念はないデータである。

◎地域からの意見

- ・観光客に対する聞き取り調査を実施し、目標を設けて行っているが、観光客の流れを把握するのは大変である。観光客の流れがわかれば、データに基づいたマネジメント型の観光地域づくりを推進することができるとともに、効果的にPRも行うことができるものと期待している。

以上